



豊島区の地域ケア推進会議(全体会議)について
(地域ケア会議周知用チラシ)

高齢者福祉課 基幹型センターグループ

令和6年12月12日(木)15:00~17:00 ハイブリッド開催： としまセンタースクエア
参加人数：74名 内訳：会場参加 58名(事務局含む) オンライン参加 16名

1. 平成30年度から令和6年度までの地域課題の選定 および 令和6年度「全体会議に向けた検討会」の取組について

豊島区における地域課題の優先順位 平成30年度

順位	課題	広範性と深刻性				実行可能性と効果				合計
		5	10	7	8	6	10	1	-1	
1位	災害への備え	5	10	7	8	6	10	1	-1	46
2位	認知症を地域で支える	5						9	0	45
3位	医療と介護連携	3						7	7	35
4位	社会資源・仕組み作り	4						2	3	23
5位	地域の支え手	5						9	1	22

令和2年度の検討

コロナ禍で見た地域課題

- ①利用者の介護サービスへの影響
- ②高齢者の心身の健康状態について
- ③地域とのつながり
- ④介護者との関係

令和3・4年度の検討

1)入浴の場の充実

- ①3年度「入浴の場と調査テーマのしぼりこみ」
- ②4年度「移動支援付き銭湯入浴モデル事業」・調査

2)高齢者のごみ出し支援

令和5年度の検討

1)入浴の場の充実 5年度「入浴特化型デイサービスモデル事業」

- 2)インフォーマルな担い手
元年度「地域の支え手を活用する仕組み作り」
「インフォーマルな担い手」3か年計画の初年度
生活課題の分析・担い手のイメージの共有

3)過年度報告

「災害体制プロジェクトチーム」
平成30年度「災害の備え」から創設
5年間の取組

令和6年度の検討

1)住民主体の支え手

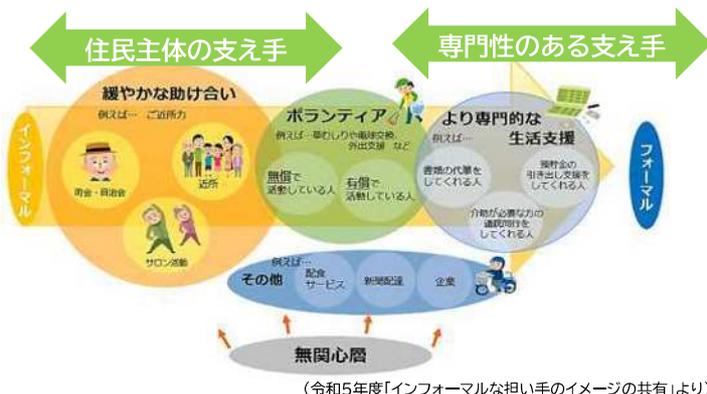
住民が主体的に関わるための仕組みづくりの検討

2)専門性のある支え手

個人情報保護や専門性が必要になる活動について、
多職種・多機関で検討

3)過年度報告

「としま入浴通所サービス」
令和6年度より開始の事業について紹介



(イメージ写真)

住民主体の支え手

① 住民主体の支え手のイメージの共有

住民主体の支え手を増やすためには

ご近所力の向上が必要

- 近所の人との関係性が大切
- 支え手の高齢化・社会情勢の変化など、ご近所力が低下してきている
- 昔ながらの関係性から支え手が生まれるのではない
- 一人暮らしが多い、先ずは挨拶ができる関係性が大切

仕組みが必要

- 支え手を増やすのが、少ない支え手が活躍できる仕組みか
- コーディネート機能が大変、支え手の責任が重い
- 関心のある人だけでは続かない、無関心の人から掘り起こしていく仕組みが必要
- 支え手のモチベーションを保つことが必要

継続した関係性を作るには何が必要か

お互いにWin-Winの関係性が作れないか

支え手を増やすには、「ご近所力」や「仕組み」が必要。お互いにWin-Winの関係性をつくる

② 取組計画

今年度の目指すところ

ご近所力・家族力が低下しても大丈夫な仕組みが必要

地域で支えて欲しいことはたくさん挙がるが、繋がらない。支えて欲しいことに応じていくのではなく、支え手になりうる人のやりたいことを知る。新たな視点の取り組みをする。

支え手がやりたいこと・できることにフォーカスし、仕組み作りをしていく

現状の社会資源を調査し、今までの視点を変え、目標を定める

③ 支え手のニーズ把握の対象・調査方法の検討

支え手のニーズを把握するために世代別に整理



今年度はセカンドライフ応援講座・相談会でアンケートを実施

④ 残された課題と今後の取り組み

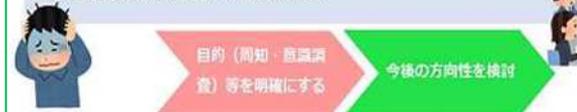
◆ 若いシニア層向けアンケート

- セカンドライフ応援講座参加者以外の一般の若いシニア層向けアンケートも必要ではないか



◆ 中高生向けアンケート

- アンケート作成にあたって、目的（周知・意識調査）を明確にし、対象先を絞る必要あり。（学校、地域のイベント等）
- 学校への交渉は、経験上難しく、時間がかかる。



残された課題と今後の取り組みにご意見をいただく

会議参加者の意見(一部)

- セカンドライフ応援講座相談会での暫定的集計結果
65名参加、60代が6割、43%が男性。2層コーディネーターからの**連絡希望者の71%が男性**。
自由記載にしたことで幅広い意見があった
- 高校生大学生とは接点あり(豊島ボランティアセンター)
学業が優先なので、学生の皆さんの興味関心を大事にしながら、**のびのびと活動できる環境**を。思惑があったとしても**直接目指さないで**遠回りしてでも仲良くなることから始める
- 中学生に授業をしたことがある(豊島区医師会)
授業をやるみたいだな形だと比較的アプローチがしやすい。**卒業生のお母さん**や学校医からだ、学校の先生への交渉の糸口があるかもしれない
- 高校では社会科に公共という科目が入った
公共の科目の中で高齢分野の方々には**豊富な財産**を持っているので、学校にとっては魅力的な資源の一つになるのではない

専門性のある支え手

① 課題の整理、支え手の現状

「より専門的な生活支援」の洗い出し

■専門性のある支え手として、どんなことに関わっているの？

- 実務的な相談、個別対応
- タスクが明確でない
- 各種申請手続き（マイナンバー、公営住宅、養老、入居等）
- サービスのつなぎの支援
- 緊急時、避難時の移動
- カードの発行、銀行の振込等
- 救急送迎時の対応
- 葬儀事務

■どんな人が関わっているの？

- 身寄りのない人
- 一人暮らしの人
- 高齢サービスの要い人
- 生活保護受給者
- 家族の支援が受けられない人

■関わっている人を支える人は？

- ケアマネジャー
- 包括
- 訪問介護ヘルパー
- 訪問看護の職員
- 個人医師、権利擁護を守る人
- 後見人等
- 知人
- 社協
- OSW
- 町会
- 民生委員

課題として、

- ✓ どのような仕組みがあれば有意義なの？
- ✓ 専門的な役割の認知が必要なの？
- ✓ サービスが不足しているの？
- ✓ 支え手が不足しているの？
- ✓ やらねばならないのでやっているんだよね

この4つをキーワードにしてがんばろう！！

- 身寄りなし
- 独居
- 低所得
- 家族の課題

「専門的な生活支援」について、どのような困りごとがあり、支えている人々はどのような方が洗い出した

② 今回の検討会「専門性のある支え手」の方向性

【ケアマネジャー】

① 実務把握

② 同等の取組を整理

③ 社会資源の活用や関係機関との連携が課題

④ ケアマネジャー等の役割の認知が課題

⑤ 制度のほどこまごまごした必要の多いサポートの検討

【ケアマネジャー以外の支え手・関係機関】

- 包括
- 社協
- CSW
- 介護事業者
- 医療機関
- 行政
- 民生委員
- 町会
- 知人

連携・協働

連携・協働

支え手の実態を把握するために検討会としての方向性を定めた

③ 課題の検討分析(ケアマネジャーの求める制度)

としケアが行った、ケアマネジャー業務（法外支援）に関して求める制度のアンケート・意見交換から以下の意見を得た。

介護保険では対応できない範囲の生活援助

- 散歩や趣味活動、散歩のための外出活動
- 本人が入居中のベットの世話
- ゴミ屋敷の片付け、大掃除や害虫などの駆除
- 障害者手帳やシルバーパスなど、各種申請手続きの代行
- 衣類や寝具など日用品以外の物についての買物代行
- マイナンバーカード作成のための事務手続き
- 生活保護の方でも自己負担なく院内介助ができる制度作り

他に求めたい「参考事例」参照

- 各担当部署との密な連携
- 結核・助成金
- 今ある仕組みの拡大
- その他、新しい制度

ケアマネジャーが求める支援として、

全体会議に向けた検討会へ提言を行なった

支え手の重要な役割を果たすケアマネジャーの抱える課題である法外支援について検討分析を行った

④ 課題の整理、支え手の現状

「ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会」では、居宅介護支援事業所における業務の在り方として、ケアマネジャー業務を以下のように分類している。

業務の区分	主な事例	対応例
① 法定業務	利用者からの相談対応 関係機関との連絡調整 ケアプラン作成	-
② 保険外サービスとして対応しうる業務	車庫・不眠症等の対応、受取 食料配達・発送 代筆・代読 緊急時送迎の調整 郵物の片付け・ゴミ出し、 買い物などの家事支援 運転サービスの利用や 利用料支払いの滞り 換気扇の引き出しや便器 の掃除	保険外サービスでケアマネジャーが対応 他の地域課題について対応 自費サービス、NPO団体、 ボランティア団体等
③ 関係機関につなぐべき業務	入院中・入所中の職員スヤ 必乗時の確保 徘徊時の確保 死生事務	消防や救急等と打合せ、体制を整える 自費サービスやサポート事業員 (含む) (含む)
④ 対応困難な業務	医療同意	-

「専門性のある支え手」検討内容とも重なる！

厚生労働省「ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会」の流れと、今回の検討会の動きを比較

⑤ 社会資源の活用や関係機関での連携

< 多職種・多機関のネットワーク・連携について >

とくに支援者が困難を感じている対象者や内容

低所得者層 金銭管理

担当所管やさまざまな主体へのアプローチ、連携の強化が必要である

支援の必要性

連携・協働

自費サービス

行政・包括

インフォーマルな支え手

その他 関係機関

所管へのアプローチ

- 生活福祉課 ⇒ 自立促進事業について説明
- サポートしよ ⇒ 実態が見えるような実績の共有

本人・支援者の困難な状況を改善する為には、ケアマネジャー等の役割の周知や多職種・多機関のネットワークと連携が必要だと分かった

⑥ 次年度の方向性

ニーズ・担い手の調査 → 課題の抽出 → 新たな支援策

次年度の方向性を検討するために…

今回の検討会・全体会議で見た課題（としケアによる調査結果や関係機関連携の強化、ケアマネジャー等専門職の役割を周知する必要性）や政策提案に向けた一考察を踏まえて、来年度の方向性を検討していきたいと考えます。皆さまからのご意見をお願いします。

検討会、全体会議で見た課題を踏まえご意見をいただく

会議参加者の意見(一部)

- ・ ケアマネジャーのキャリアの違いやひとりケアマネジャー事業所の方は**情報を得る機会が少ない**。居宅介護事業所の数も年々減っていることから**地域包括支援センターとしてもサポートが必要**であると考えている。
- ・ 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度について、分かりづらい部分があるので、正しく知ってもらうことが必要。また、せつかくある**制度やサービスをより活用**してもらうためには、もっと**知ってもらう方策を取っていかねば**らぬと思っている。
- ・ 現在あるものをより効率的に効果的に使うということも大事。ケアマネジャーの方々を**それぞれの機関や組織で支えていくこと**をぜひ取り組んでほしい。
- ・ 判断能力がなくなる前の段階から財産管理、身元引受人や終末期のことを準備する若いシニア層が増えていけば、**現在のような問題が減少**する可能性がある。また、現在の介護保険制度の限界や将来必要となる支援等についての**情報提供**になる。

としま入浴通所サービス



紹介動画の放映



利用者の様子等の紹介



マニュアル・パンフレットの紹介

会議参加者の意見(一部)

- ・ **パンフレットやマニュアルを活用**いただくことで、他の社会福祉法人がこの事業に参入するきっかけになると良い。
- ・ 障害施設の入浴設備を使用しているという点において、**分野を超えたサービスの提供**と**障害を持つ方が地域で生活していることを多くの方に知っていただく機会**につながっている。そういった地域づくりこそ、地域共生社会で求められていることである。